

C-61 ズボンの折目線に関する研究 (第7報)
——折目線第二因子があらわす捻れにつ
いて (その2)——

高知女大家政 市川 一夫
松浦千代子
○寺内アヤ子

1. 前報において折目線第二因子の影響は布地の種類によって変わり、綿、テترونウール、ウールの順に捻れが大きかった。しかし、同じウールにしても羊毛種、それより作る糸の種類、色々の染料による染色処理の影響等があり、この影響はどうあらわれるか。

2. このような調査は広範囲にわたって行なう必要があるが、今回は同一羊毛につき、染色工程の異なるものに織り方を変えたもの、変えないものにつき、ポーラーとウーステットが入手できたので実験を行なってみた。試料の作成は一種類 (18×18cm) とし、前報と同様の計測方法でデーターをとる。

3. ポーラーについては、同一の織り方で単に染色処理を異にした場合、分散分析の結果、その変動は小さく有意差はない。織り方別の変動は可成り大きくなったが、有意差を生ずるには至らなかった。

ウーステットについてもポーラーの場合とほぼ同様の結果が得られた。